

「慢性期医療を考える会」アンケート結果

慢性期医療を考える会

日時：平成22年10月29日(金) 18:30~21:30

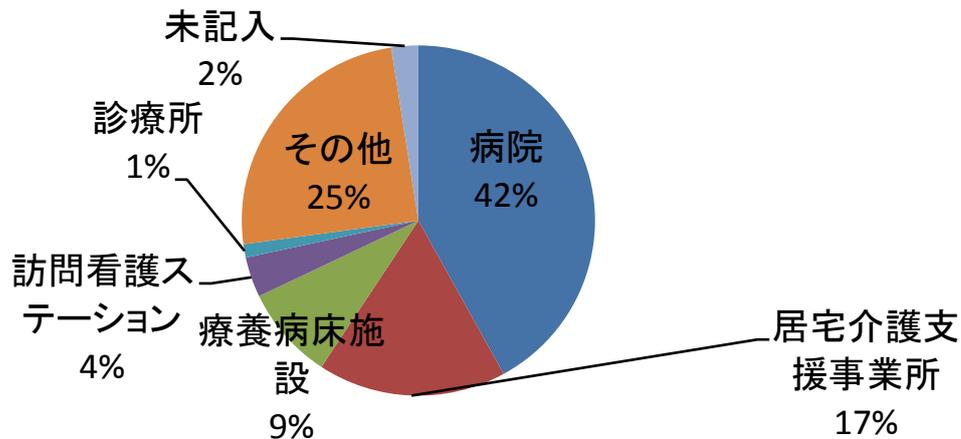
会場：もくせい会館 1階 富士ホール

参加人数：118名

アンケート回答者：81名(回答率69%)

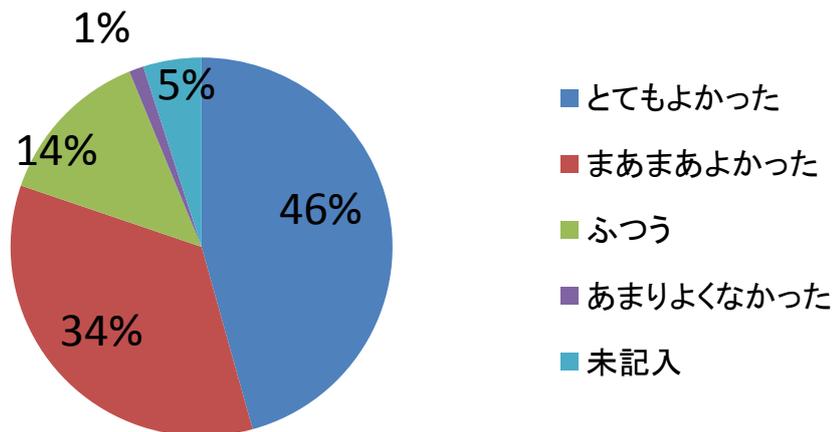
1 貴院・貴施設についてお答えください。

アンケート調査施設別割合



2 本日の講演についてのご感想をお聞かせください。

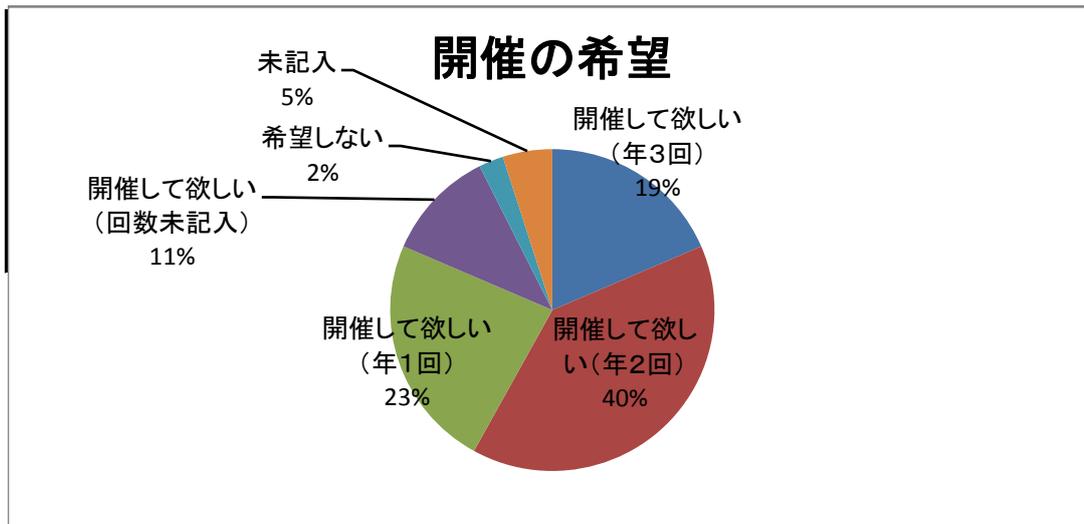
講演についての感想



本日の講演についての主なご意見

- ・他の地域の様子が聞けて良かった。
- ・職員へのアンケートや評価など大変参考になりました。
- ・認知症高齢者への具体的支援方法について知りたい。

3 今後、このような会の開催を希望しますか。



4 慢性期医療における現在の問題点や病院・行政に対する要望などをお書きください。

(主な意見)

- 急性期病院と慢性期病院との連携、医療・介護のつながりを強化する取り組みが必要である。
「二次医療圏ごとのケア・サイクルの中で、他の医療機関(急性期、回復期)との連携を強化する取り組みを推進することが、安心・安全な地域づくりに不可欠だと考える。」
- 急性期病院と慢性期病院の間に亜急性期病院が必要である。静岡にも増やしていく方向に働きかけをする。
- 家族に医療レベルの差、費用の差等を理解してもらう必要がある。
「急性期病院と慢性期病院とで費用に差があり慢性期病院の転院がスムーズに行われない。」
「家族の理想の医療とのギャップを納得してもらうのが困難。」
- 病院は認知症の病気をもっと理解して欲しい。
「急性期病院に入院後は必ずといっていいほど認知症や身体機能の低下があります。治療のためとはいえ、もう少し認知症の対応を勉強してほしいです。医療行為の部分で生活に必要な内容を研修をすれば施設でも対応できる人もいるのでは…」
- 急変時には急性期病院でしっかり対応できる体制にして欲しい。
「急性期を過ぎ、在宅へ返すことになる場合、不安を持つ家族が大変多いです。もっと医師からの説明、開業医へつなげること、急変時の対応(急変時には入院させたい人は多い)など安心して退院できるサポート体制を充実させてほしいです。」
- 在宅にする時は主治医の連絡先を密にしていきたい。
- 県内の慢性期病床の現状・情報を知りたい。
「慢性期病床を持つ病院の情報が少なく知られていないと思う。知りたくてもどのように調べたら良いかわからない。」
「院内の状態を見学させてほしい。」
- 現場の人員不足
「看護師の数がとにかく不足している。このため医療の質を向上させる目標を持てるレベルではない。いっぱいいっぱい病棟運営している状態。」
「もっと慢性期医療にかかわることの魅力をPRスタッフ、給料を増やし、働きがいのある職場環境にしてほしい。」